

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

7月報

インフルエンザ/COVID-19定点(小児科定点を含む)

※令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、定点医療機関による定点把握となっています。

インフルエンザ： 2,259件(前月比2.2、前年同月比-)でした。前月比、前年同月比とも大きく上昇しています。前年同月の発生数は0件であり、著しく高い値で推移しています。令和4年12月から発生数は連続して増加し、令和5年の2月(3,060件)にピークを迎え、以後は4月(482件)まで連続して減少していました。しかしながら、5月から再び連続して増加に転じており、今後の発生動向に注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症： 5,970件(前月比2.2、前年同月比-)でした。前月比2.2と大きく上昇しています。発生数は、定点把握が開始となった令和5年5月(536件)から連続して増加しています。7月の発生数は、5月より10倍以上の高値となっており、今後の発生動向に注意が必要です。

小児科定点 (全体傾向)

11,696件(前月比1.50、前年同月比7.75)でした。前月比、前年同月比はともに上昇しています。特に前年同月比は著しく上昇しています。新型コロナウイルス感染症5,970件(前月比2.2、前年同月比-)、インフルエンザ2,259件(前月比2.2、前年同月比-)、感染性胃腸炎1,138件(前月比0.5、前年同月比1.4)、ヘルパンギーナ792件(前月比1.4、前年同月比16.9)、RSウイルス感染症693件(前月比1.6、前年同月比28.9)の発生数が高くなっています。インフルエンザ2,259件(前月比2.2、前年同月比-)、RSウイルス感染症693件(前月比1.6、前年同月比28.9)、ヘルパンギーナ792件(前月比1.4、前年同月比16.9)、A群溶連菌咽頭炎179件(前月比0.6、前年同月比8.5)の前年同月比が特に高い値となっています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症： 693件(前月比1.6、前年同月比28.9)でした。前月比、前年同月比ともに上昇しており、特に前年同月比は著しく高い値となっています。発生数は5月(118件)から連続しており、今後の発生動向に注意が必要です。菊池(36.60)が特に高くなっています。
2. 咽頭結膜熱： 90件(前月比0.8、前年同月比1.3)でした。発生数は5月(76件)から連続して増加していましたが、6月(107件)をピークとして、7月は減少に転じています。前年よりは高い発生数で推移しています。
3. A群溶連菌咽頭炎： 179件(前月比0.6、前年同月比8.5)でした。発生数は2月(45件)から連続して増加し、6月(300件)にピークを迎え、7月は減少に転じています。前年同月比は8.5と著しく上昇しており、4月(74件)からは前年より高い値で推移しています。宇城(15.25)が特に高くなっています。
4. 感染性胃腸炎： 1,138件(前月比0.5、前年同月比1.4)でした。発生数は5月(1,184件)から連続して増加し、6月(2,223件)にピークを迎え、7月には減少に転じました。前年より高い値で推移しています。菊池(57.60)、有明(52.80)が特に高くなっています。
5. 水痘： 31件(前月比2.2、前年同月比2.8)でした。前月比、前年同月比ともに上昇しています。全体的には例年並みで推移しているようです。

6. 手足口病 : 268件(前月比2.4、前年同月比1.0)でした。前月比は2.4と上昇しています。発生数は、4月(26件)から連続して増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。前年同月比は1.0と前年と同等に推移しているようです。有明(11.20)が特に高くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 1件(前月比0.3、前年同月比1.0)でした。低い値で推移しています。
8. 突発性発疹 : 103件(前月比0.8、前年同月比0.9)でした。例年と大きな変動はなく推移しています。
9. ヘルパンギーナ : 792件(前月比1.4、前年同月比16.9)でした。前月比、前年同月比ともに上昇しています。特に前年同月比は著しく高い値となっています。発生数は2月(106件)から連続して増加していましたが、5月(307件)には一旦減少しました。しかしながら、6月(549件)からは再び連続して増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。菊池(45.00)が特に高くなっています。
10. 流行性耳下腺炎 : 17件(前月比1.0、前年同月比4.3)でした。4月(15件)から前年より高い値で推移しています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数1件(前月比一、前年同月比一)で、令和元年12月以来の報告でした。熊本市の30~39歳で1件です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数13件(前月比0.7、前年同月比0.4)と減少しています。酷暑の影響で集合する機会が少なかったのかもしれませんが。年齢別では30~39歳に3件、50~59歳に3件と小さな山があります。熊本市12件、天草1件の報告です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数69件(前月比0.9、前年同月比1.2)でした。男女別は、男性41件、女性28件でした。年齢別では男性では10代後半から60代前半、女性は10代後半から50代前半に認め、20代をピークに39件、10代後半に5件、30代に15件、40代に7件、50代に2件、60代に1件でした。地区別は、熊本市51件、次いで宇城で男性のみ7件、八代で6件、以下女性のみ御船、有明で2件、人吉で1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数24件(前月比1.0、前年同月比1.5)でした。男女別は、男性17件、女性7件でした。年齢別では、男性は30代後半から40代をピークに20代から70代以上まで認め、女性は20代から40代及び60代に認めました。男性は20代1件、30代、40代で各5件、50代2件、女性は20代2件、30代、40代で各1件、60代が男女とも3件ずつありました。地区別は、熊本で男性のみ11件、宇城で男性のみ6件、八代で女性のみ4件、菊池で女性のみ3件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は9件(前月比1.0、前年同月比1.8)でした。男性7件、女性2件でした。年齢別では10代1件、20代1件、30代2件、40代3件、50代1件、60代1件で、女性は40代と60代に各1件を認めました。地区別は、熊本で8件、宇城で男性のみ1件でした。

4. 淋菌感染症：

報告数は20件(前月比0.9、前年同月比0.7)でした。男女別は、男性19件、女性1件でした。年齢別では男性は10代後半に2件、20代をピークに8件、30代6件、40代2件、50代1件を認めました。女性は20代後半に認めました。地区別は、熊本13件、宇城で5件、有明で1件、御船で女性のみ1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数16件(前月比0.6、前年同月比1.1)でした。0歳1件、70歳以上9件でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数2件(前月比1.0、前年同月0.7)でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0件(前月比ー、前年同月ー)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件(前月比ー、前年同月ー)でした。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数1件(前月比1.0、前年同月比ー)でした。乳幼児例はありません。

3. マイコプラズマ肺炎： 報告数0件(前月比ー、前年同月ー)でした。

4. クラミジア肺炎： 報告数0件(前月比ー、前年同月ー)でした。

5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)：

報告数0件(前月比ー、前年同月ー)でした。

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。

2類感染症：結核 16件

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6件

4類感染症：レジオネラ症 3件

日本紅斑熱 1件

5類感染症：ウイルス性肝炎 1件

侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件

梅毒 20件